

株式会社SIGNING、新型コロナウイルスに関する調査レポート
「Covid-19 Social Impact Report」の別冊として、
新型コロナウイルスの影響で拡大した「在宅ワーク」を取り巻く
生活者の実態・意識を捉えた調査レポート
『HOMEBIZ Report ～在宅ワークと生活者の意識変化～』を公開。



博報堂DYホールディングス傘下のビジネスデザインカンパニーSIGNING(サイニング)は、新型コロナウイルスに関する調査レポート「Covid-19 Social Impact Report」の別冊として、在宅ワークにまつわるソリューションチーム ※HOMEBIZ ROOM から在宅ワークを取り巻く生活者の実態・意識を捉えた調査レポート『HOMEBIZ Report ～在宅ワークと生活者の意識変化～』(調査日程:11月6-8日)を公開しました。

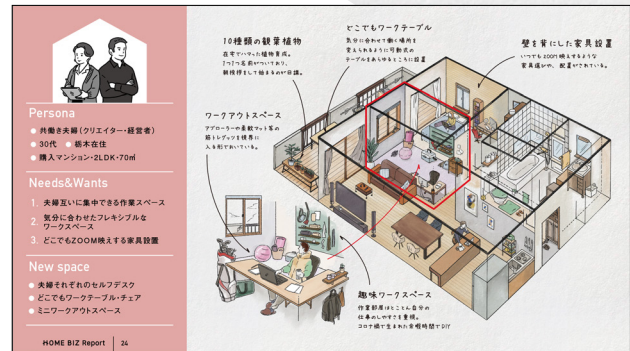
日本に初めて新型コロナウイルスが上陸してから既に1年が経ち、いまだその収束は不透明な中、緊急事態宣言の延長が宣言されました。こうした状況下で多くの生活者の「在宅ワーク」は継続されています。本レポートでは「在宅ワーク」にまつわるポジティブな面だけではなく、ネガティブな面の両者を客観的に捉え、より良いワークスタイルを実現するための”兆し”を考察します。今後、ますます多様なワークスタイルが広がっていくことが予想される中、働き方に対する価値観の違いを受け入れ、誰もが心地よい働き方を実現でき、互いの働き方を尊重するために何ができるかを考えます。

レポート詳細はこちら: <https://signing.co.jp/pdf/homebizroom-report.pdf>

レポート内容



多様なテレワーカー実態分析



テレワーカーの暮らし



在宅ワーク「これってアリなの?!」調査

調査サマリー

【在宅ワークはコロナをきっかけに浸透したが賛否両論】

- ・在宅ワーク実施者 23.3%（4人に1人）
- ・在宅ワークはしたい 35.7%、したくない39.4%（実はしたくない人も多い）

【様々な在宅ワーカー実態】

- ・完全100%在宅をしている“プロテレワーカー”
L「郊外に住みたいと思うようになった」24.1%（全体+10.4pt）
- ・在宅率50-75%の”ハイブリットテレワーカー”
L「在宅ワークになって仕事全体の効率が上がった」44.9%（全体+31.0%）

【今だからこそ問う、これってアリなの?!在宅ワークマナー】

- ・画面マナー：「オンライン会議中の画面ONの要求」YES派 50.5%
- ・身だしなみマナー：「部屋着でのオンライン会議参加」NO派 62.8%

※HOME BIZ ROOMとは

「Covid-19 Social Impact Report」を通じて得た、在宅ワークに関する生活者の意識変化やそれに伴い生まれるビジネスチャンスに対応する知見・メソッドを、専門のソリューションとして取り扱うSIGNINGのプロジェクトチームです。

在宅ワークによる新しい働き方スタイルのことを”HOME BIZ”（ホームビズ）と名付け、自身も”HOME BIZ”を実践しているメンバーにより運営されています。

調査概要

[16 - 69歳男女] 全国・3,000サンプル
[調査方法] インターネット調査
[実施時期] 2020年11月6日(金)-8日(日)

在宅ワーク「これってアリなの?!」調査概要

[20 - 69歳男女] 全国・有職者(パート・アルバイト除く)1,000サンプル
[調査方法] インターネット調査
[実施時期] 2020年1月25日(月)-26日(火)

レポート詳細

<https://signing.co.jp/pdf/homebizroom-report.pdf>

本件に関する
お問い合わせ

contact@signing.co.jp

ホームページ

<https://signing.co.jp/>

HOME BIZ ROOM

<https://signing.co.jp/covid19/actionsbeyond/homebiz.html>